

2020年度 JCN バーチャルツアーin 宮城 アンケート結果

1. アンケート概要

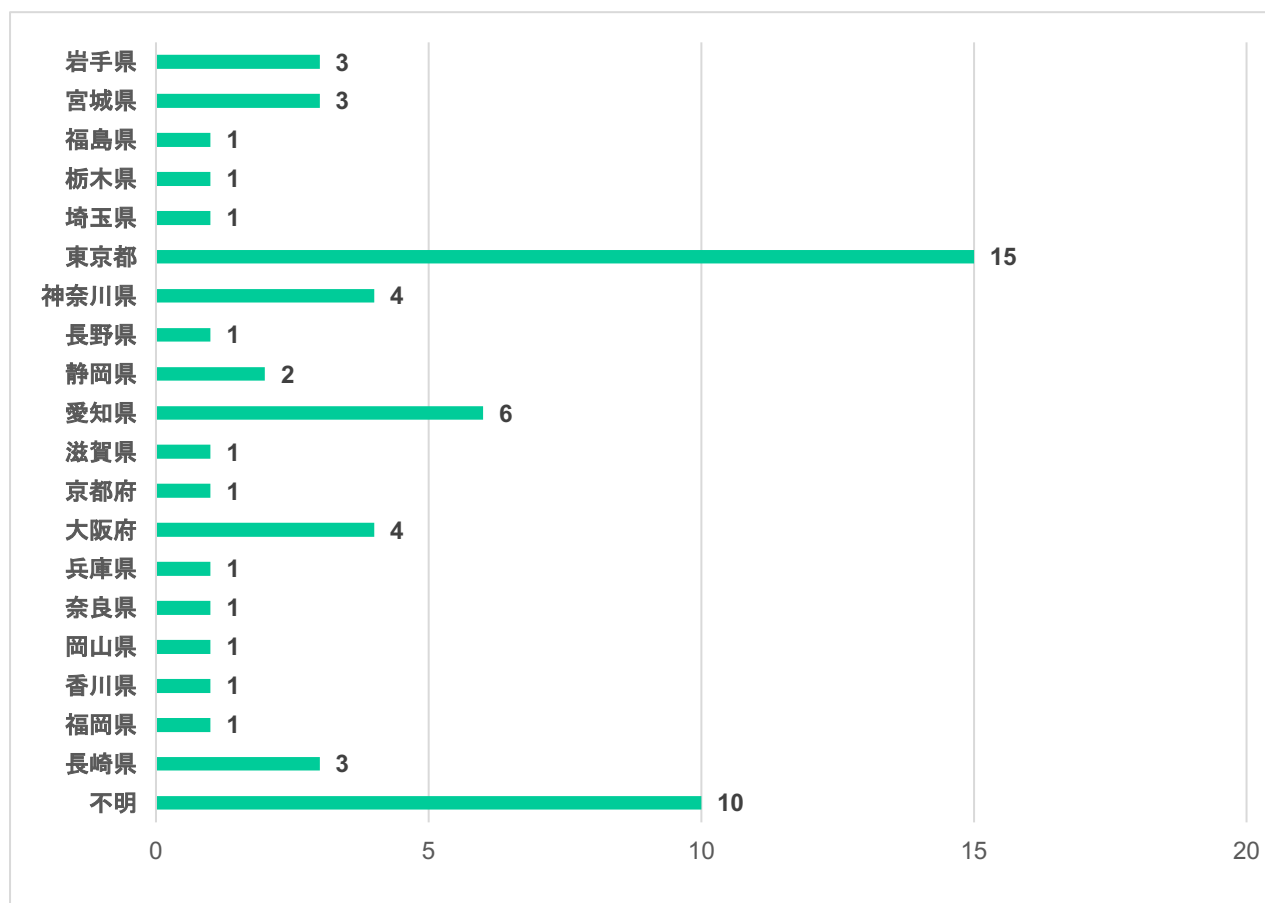
任意記名式、google フォーム、全7問（選択式2、選択+記述式2、自由記述3）

2020年12月5日ツアー交流会終了後に参加者に依頼し実施

申込者数：61名 アンケート回答者数：20名

2. 申込者の情報（アンケート設問外、事前申込みベース）

1 地域割合



2 参加動機

- 2011年以來、被災地支援に取り組んできた。10年目のタイミングで現在の被災地と、これからの東北を知りたいと思ったから。
- 所属団体にて学生向けに東北被災地スタディーツアー等を企画・運営してきましたが、新型コロナウイルスの影響で今年は中止しています。代わりに、当団体でも主に学生を対象とし、オンライン企画を重ねてきました。

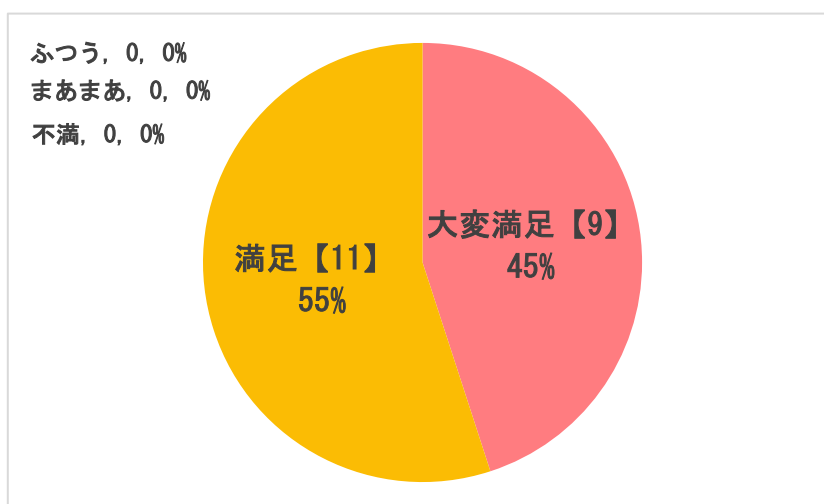
これまではオンラインについては制約の多い環境と見てきましたし、今でもそれは感じますが、一方で、現地で集うことはできなくても知ることはできるし、心を寄せることもできるとこの間実感することもできました。

今回は、(1)自分が今の東北を知り、学ぶため（特に宮城はつながりを多く持っており、さらに広げ、深めたいです）、(2)学生と何をつなげていくかについて考えを深めるため、また(3)オンラインで東北とつなぐという方法についても参考にさせていただきたく、参加を希望いたします。

貴重な機会を設けていただき、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

3. 発災の翌年に気仙沼を訪れました。状況を目の当たりにして言葉も出ませんでした。その後もニュース等で拝見していましたが、今回の機会を得て、この目で確認したく参加を希望いたします。
4. 他県の活動・復興状況にあまり触れる機会がないので。
バーチャルツアーという手を出しやすいコンテンツで発信してくれるのは助かります。
5. コロナ禍で全然行くことができていないので、今の状況などを知りたいので。
6. 被災地に今を知りたいです
7. 震災から 10 年を迎える節目の今年、現地の今をきちんと知り、わたしにできること、私たちが取り組めることを見つけたい
8. 今の様子を知りたいと思ったので
9. 東日本大震災後の復興を知りたい
10. 東日本大震災支援活動に関していたため
11. 災害支援で何度か入ったことがあるので、その後の現状を観たい
12. 震災発生から 10 年、各地域の実情を確認したいため。
13. 互いに支えあって生きている人々の生のこえを聞きたい
14. 当社が社会貢献活動として、南三陸町を支援させていただいているので、宮城県の現状を拝見したいと思いました。
15. なかなか現地を訪問することができないため、オンラインで現地の様子を拝見し、お話を聞ける機会は貴重だと思い参加申込させていただきました。
ただ、当日はこちらの参加環境の都合により、後半のトークセッションへの参加が叶いません。それでもよろしければ参加させていただけますとありがたく存じます。
16. 私は東日本大震災を背景とした宮城県の自然に焦点を当て、大学にて作品制作を行っているため、リサーチの一貫として参加させていただきました。今年は特に実際に足を運んだり、人と会いにくい状況下ですので、このバーチャルツアーで宮城の“今”と繋がってみたいと思っております。
興味深いお話が聴けることを楽しみにしております。よろしく願いいたします。
17. 自分の仕事の参考にするため
18. ただ現地に行くだけでは知りえない、東日本大震災の被災地の現状や人々の暮らしの様子を、掘り下げて知ることができる企画だと思ったから。
19. 福島県復興支援員として支援活動をしているため。
20. JCN の ML と「3.11 の今がわかる会議」にて頂いたご案内を見て
21. 震災後気仙沼を訪れたこと、また福島県内の団体と関りをもってすることで、震災を忘れないため、復興支援にどうかかわれるを考え続けるため、また今後の震災にどう向き合えるかを考えるヒントを受け取るため。
22. 行ったことがないので
23. 東日本大震災から 10 年を迎え、現地の様子を知りたい
24. 東日本大震災から 10 年 振り返りを行いたい
25. JCN バーチャルツアーというものを体験したいため。いつも貴重な勉強会をありがとうございます。
26. 原発について知りたい
27. 震災直後に何もできなかった分、中期的、長期的に、忘れず、未永くできることをやっていきたいという思いをいただいています。ゼロベースに立ち返って、震災や復興を考え続けるキッカケにしたい意向です。
28. 岩手県も申し込みました。同じ内容です。
29. 3.11 以降何度かボランティアに行き、その後が気になるから
30. 震災から節目の 10 年を前に、現地の状況や現地の方の生の声を聞きたいから。
31. お世話になります。ご無沙汰しています。大変お世話になりました。
夫の介護・自身の眼の病で今は、支援活動から離れています。けれど、個人的には避難者につながっています。
今夏、地元へ帰還した方もいます。コロナを地元へ持ち込まないよう気づかいしながらの帰還でした。
1 昨日、閑上に関わる方と一緒に。コロナが収まったら、行きたいと思っています。"
32. 宮城県の復興支援の最新状況、求められている人材・不足している支援について情報を得たい。
33. 震災復興に対して、関心があるため。

3. 参加の感想



理由 ※原文まま

《大変満足》

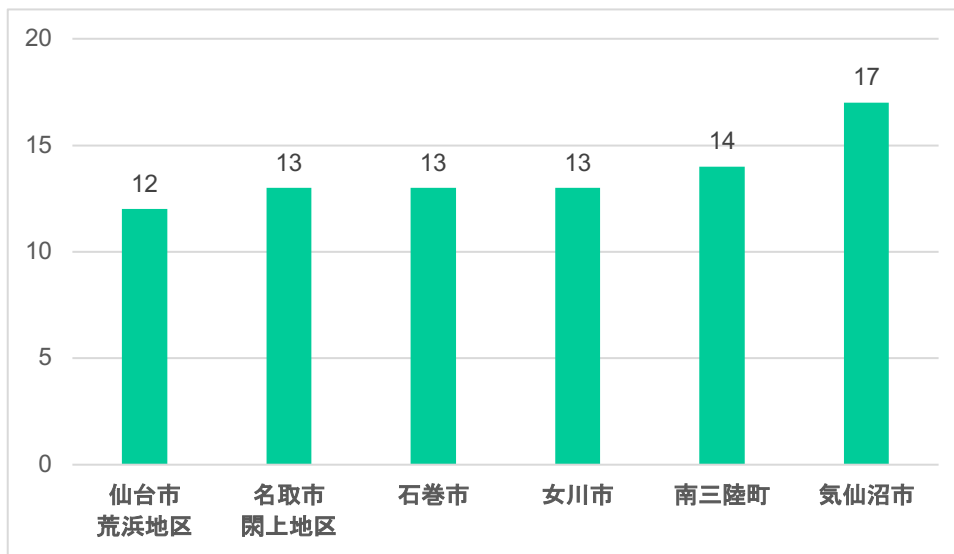
- 1) 宮城の今の映像がよかった
- 2) 震災当時の映像と現状を見せて頂き、宮城を感じさせていただきました。
- 3) 山崎先生から「風の人・土の人」という言葉がありましたが、リアルな想いとして外から入られた皆さんがどのようなスタンスで各土地とのかかわりを作られているのかが分かりました。
- 4) 生の画像も見られた。登壇者のお話に感動。
- 5) (申し訳ありません。私用があり、大幅に遅刻して参加しました。) バーチャルツアーは少し拝見できただけでしたが、後半のディスカッションで、成宮さん、佐藤さんのお気持ちをより強く知ることができました。エネルギーはもちろんですが、やさしいお気持ちが無ければ、災害を受けた人や地域を動かせないと思いました。
- 6) 用意されたビデオ、インタビュー内容の準備と、全体的なボリューム(時間)
- 7) 自分たちが主導となって地域の復興を行い、それだけでなくその活動を全国に広げていこうという取り組みが素晴らしいと思いました。
- 8) 今の宮城をいろいろ見せてもらったことはもちろんよかったですが、地域に根ざした活動をされている方々のあつい想いを伺うことができたのもよかったです。
- 9) それぞれの活動の中身が濃く、コロナ禍での閉塞感に叱咤激励されたように感じ、頑張らないと思った。

《満足》

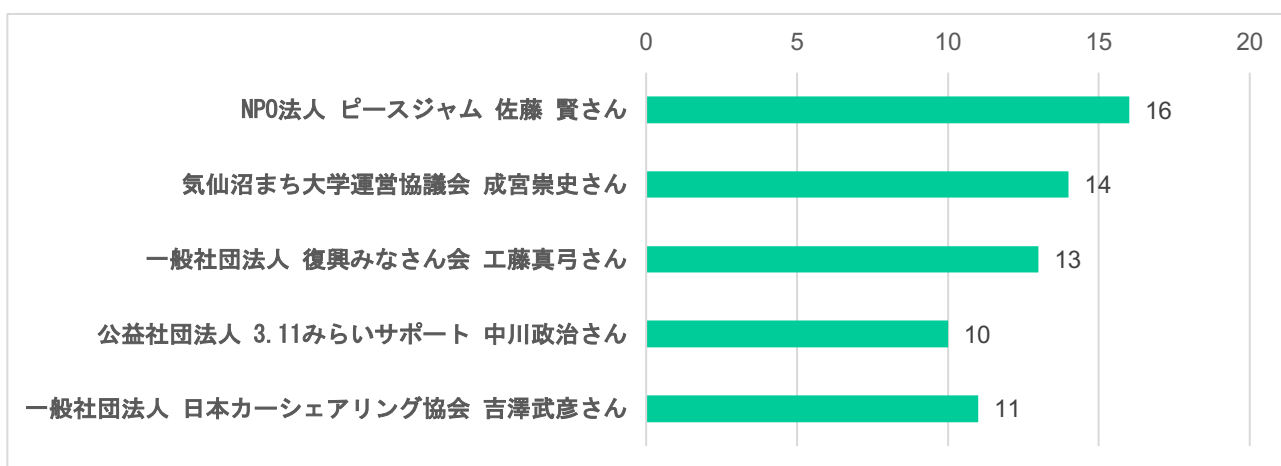
- 10) 各地域で真剣に活動している皆さんの思いや人柄が感じられたから
- 11) 様々な取り組みを知ることができて、よかったです。
- 12) これから先につながる話題になったので
- 13) 震災当時の映像と、今の様子を比較できてよかったが、ナレーションの中だけでなく映像の中にも地名を入れて欲しかった。
- 14) コロナ禍という全国共通の苦難がある今、それを乗り越えていく力となるようなメッセージを多くいただきました。
- 15) 皆さんの笑顔を見ることが出来た
- 16) 動画のインタビュー、ライブでのみなさんの言葉、とても響きました。
- 17) 現地の映像やインタビュー動画が非常によかった。被災当時の様子と現在の様子を並べて観られたのは非常に価値があったと思う。
現地の様子もそうだが、現地以外から被災地や東北のためになにか実践している方々の話も聞いてみたい。
- 18) 被災地域の現状が分かりました。また、NPO の皆さんの思いや取り組みに共感できる部分も多く、とても勉強になりました。

- 19) 震災後の街の様子が見れたこと、街づくり、コミュニティづくりのお話が聞けたこと
 20) 遠く愛知県から、宮城の様々な方々のお話を伺えたため。

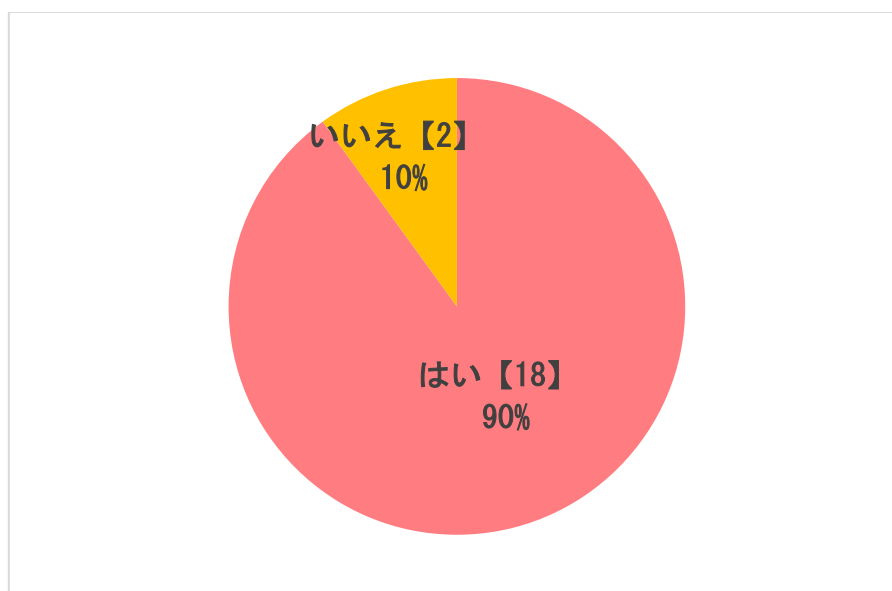
4. 訪れたいと思った地域はありましたか？（複数回答可）



5. 訪ねてみたいと思った方はいましたか？（複数回答可）



6. 出演者からの「関わり方の提案」の中で関われそうなことがありましたか？



「はい」と答えた方は具体例を、「いいえ」と答えた方はその理由をお答えください。

「はい」

- A) 石巻から全国に発信することで恩返しになるということに感銘を受けました
- B) 離れた地でも、応援できるし 広めることもできと思っています。私ができる事を考えていきたいです。
- C) それぞれのまちづくりの取り組みを生協の関係者と一緒に共有していく機会などを作れるとありがたいと思いました。
- D) キャリアコンサルタントとして、避難者の就労支援にあたってきた。女性の就労、両立支援相談員を公的機関で行ってきた。ただ高齢のため何がお手伝いできるか悩み。
- E) 以前から関心はあり、この企画でより関心は深まりました。活動の中で伝えることを実践します。
- F) 地元の方々との連携は地道な取り組みの継続に根ざしており、その見届けは活動への寄り添いにつながると感じました。
- G) 宮城のものを購入したり、ふるさと納税をしたい
- H) クラウドファンディング、ふるさと納税は個人的に。団体としても語り部のオンライン配信を取り入れた企画や PEACEJAM の商品の販売など。
- I) 現地を訪れ直に見る。クラウドファンディングに協力したり、商品を購入する。
- J) 訪ねて行って学び、それを外部に伝えていく。そして 3.11 を忘れずにいる。
- K) これから先の 10 年は、各県で行われている小さな活動をつなぎ合わせ、被災三県として世界に発信していく活動が増えていくと思うので。
- L) 町に行くとか、商品を買うとか？
- M) オルタナオンラインでの発信
- N) ただ、今すぐ「これ」と言えないので具体的にはこれから考えます。
- O) 仕事でもそうだが、現地に足を運び学び続けることはこれからも継続していきたい。また、今回のようにオンラインで現地と繋いで中部圏の中高大学生への伝承やスタディ〜ツアーなどを法人としても企画していきたい。
- P) コロナが落ち着いたら宮城に行く
- Q) まだ、具体的には浮かびませんが、関心を持って情報を得ていくことから始めたいと思います。
- R) 足を運び、東北の教訓を学ぶとともに魅力を発見していくこと。東北の取り組みと愛知をつなぐこと。

「いいえ」

- S) まずは現地を訪れて知ることから始めたいと思います。
- T) まだ自分の中で消化できていないです

7. このツアーで印象に残ったこと、宮城への想いなどご自由に記載ください。

- 1) コロナ禍が収束したらまた三陸を訪ねたいです、ありがとうございました。
- 2) コロナがおさまったら現地を訪問したいと思います！
- 3) 2011年5月初めに行った石巻の状況が忘れられません。その後、生協の活動を通じて、宮城のみなさんとも何度かご縁がありました。久々の宮城、また訪ねたいです。今日はありがとうございました。
- 4) 震災は、とても悲しい現実でした。でも、人はその悲しみを抱えながら前を向き、進んでいると感じました。
- 5) 成宮さん、佐藤さんとは2回目です。幅が広まり、掘削力が力強く感じられました。三浦さんの勉強熱心さは健在でしたね。今後ともよろしく願いいたします。
- 6) 若い皆さんのまちを元気にしたいという想いに心打たれました。それに呼応して違う土地だけでもつながっていきたいと思います。
- 7) 今日のツアーを関上の支援に行っていた友人に見せたい。コロナが収まったらその友人と宮城を訪ねたい。いまだ仮説にいらっしゃる方の事が気にかかります。
- 8) 2011年7月に宮城県の表浜に炊き出しに参加し、その後も主に宮城県の活動に参加しました。それほど

多いとは言えませんが、宮城県は特別な所になり、ずっと気にかかる所になりました。新型コロナが収まったら伺おうと思います。

- 9) 「地元が担っていく活動」の"とっかかり"を、それぞれの形でこれまでの時間をかけて作り上げて来られた事に改めて気づかされました。これもひとつの断片として捉え、もっと様々な事に目を向けながら、自分に出来る事を考えて行きたいと思います。
- 10) 10年で変わったこと（進んだこと）、変わらなかったこと、それぞれあると思いますが「10年を節目にしない」という視点もその通りだと思いました。人の生活も地域の活動も途切れず続いてきますよね。
- 11) 私は気仙沼市出身なので、成宮さんと佐藤さんが気仙沼市の活性化を考えて、行政と協働で街の人を育てたり、困っていることを自分事として同じ目線で問題を解決しようと行動している姿に感動しました。気仙沼に帰った際には一度話をしてみたいですし、その活動を愛知で紹介する場を設けたいと思いました。今回愛知からの参加者も数名いたようでしたので、その方と協力して実現させたいです。
- 12) ありがとうございます。
- 13) 今の宮城がよく分かる映像をたくさん届けてくださって本当にありがとうございました。震災後2回宮城にも行かせてもらいましたが、その頃からは想像もつかないほど綺麗に復興した建物を映像で見て、これからの可能性を感じ、私たちが遠い地から関われることってどんなことだろうっていろいろ考えることもできました。失ったものも多かったけど、得たものもある。失ったからこそ新しいものが立ち上がってきた。…東北の方の辛抱強さってすごいですね。とはいえ、まだまだ復興も道なかば。現地にしっかりと寄り添って想いを通わせながら、わたしにできること、私たちにできることを考え行動にうつしていこうと思います！
- 14) 今までのご苦労は大変だったと思います。今どこで災害が起こるかわからない時代です。どんな時でも、強い心でつながっていきたいと思いました。宮城はまだ訪れたことがありませんが、コロナ終息後には是非とも訪れたいと思います。
- 15) 原状復帰のための復興でなく、より豊かな未来をつくるために挑戦する姿勢が印象的でした。特に気仙沼のお二人の、人をつなぎ地域の活力を高めるような取組みは、これから全国どの地域でも必要になるような内容で大変参考になり、もっと知りたいと感じさせられました。
- 16) 一言に10年と言ってもそこには当然ですが、さまざまな環境に置かれている人、思いがあることを改めて思い知った。決して風化させないため、これからの日本の災害への指針となるべく広く発信できたらいいと感じました。

以上